



元気っ子通信

No.50

平成 25 年 3 月 5 日

3 月、4 月は入学、進級と子供達も新しい生活に向けて自信とちょっぴり不安の入り混じった気持ちだろうと思います。その気持ちをまわりの大人がささえていけるようにしたいものです。

昔は地域の人々の「たまり場」みたいな場所があって、そこに自然に人が集まってきていたそうです。そこで、たき火をしながら話がはずんだと近所のおじいさんの話です。「今はだれも外におらん。車でさーっと出かけて言葉もかわす間もない時代になった」と人と人のかかわりのうすくなってきた今を嘆いておられます。

人が集まっている場所に、子供もいて、時々「あぶないぞお」「元気やお」と言葉もかけてもらう「遊ぶ場」があってこそ子供は育っていきます。いろいろな知恵も世の中のことも何となく耳にして成長していきます。そういえば、子供の頃おじいさんたちが言っていたことがこのことだなと気付くこともたくさんあると思います。それが生きる上での基礎になる力です。子供を地域で育てることです。

今は、勉強のできることを、人より上にいけることが一番大切なことのように考えられがちです。そうではなく、一人一人にはそれぞれ自分にしかない力があります。それを大切に育みながら、自分だけが持っている「磨くべき石」を大人になって花開かせることの方が豊かな人生を送れるのではないのでしょうか。

大人も意識を変えなければ子供も変わりません。本来の子供のあるべき姿は「仲間と遊びまくる」ことです。

こんな思いから始まった「元気っ子クラブ」も10年を超えました。ですから、ここでは集団の中で約束を守って「仲間と思いきり遊ぶ」ことが基本です。そして、親の役目として「家庭のしつけ」を身につけさせてほしいと思います。しつけの土台が親子の会話であり、親の生活の姿です。手間をかけて一日一日の積み重ねを大切にしましょう。

家庭の役割、学童の役割がうまくかみあってこそ子供の育ちにつながります。

